

[0018]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2003年

<https://doi.org/10.15017/6248>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 18, 2004-08. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :



平成15年度(2003/2004年)の研究活動の概況

生体防御医学研究所・所長

吉開泰信

(よしかいやすのぶ)

生体防御医学研究所(生医研)の「生体防御」という言葉はいまでは全国に50以上の大学・研究所にその名を冠する専攻、講座がありますが、生医研がその名称の発祥の地であるという意味では **First one** であるといえましょう。学部学生の教育の duty のない附置研究所は研究成果の発進力が存在意義を問う上で重要となります。いままで生体防御医学研究所は質の高い基礎研究の成果の情報を発信してきました。論文の質や教官一人当たりの科学研究費補助金獲得額(平成15年度 6,771 千円/人)からも九大でトップクラスの地位を保ってきました。また別府の病院地区では遺伝子治療などの先端的医療研究を強力に押し進めると同時に、生体の本来治そうという力、すなわち生体防御力を利用した生体にやさしい治療の開発研究をめざしている点は大変ユニークであり **only one** といえるでしょう。このように生医研は **first one**、**number one** かつ **only one** の3つの特徴を有する九大附置研究所といえます。

いよいよ平成16年度より国立大学独立法人九州大学がスタートしました。これまでの法令で附置研究所の存在が認められていましたが、これからは九州大学の意思で生医研が位置つけられることとなります。いままでは極端に言えば文科省への説明だけでよかったのですが、これからはこれまで以上に研究所の存在意義を大学内外に発信していかなくてはなりません。質の高い基礎研究の成果の情報を発信し続けることはもちろんのこと、社会貢献・国際貢献に関する活動を社会に対して目に見える形で示すことが重要となってきます。年度毎の研究活動を掲載した研究所の年報は、その意味でもますます重要な役割を担うこととなります。ここに九州大学生体防御医学研究所年報平成15年度第18号を送ります。御批判ならびの御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年5月31日